

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570800528		
法人名	医療法人あろう会		
事業所名	まいホームひまわり		
所在地	岩国市車町1丁目8番12号		
自己評価作成日	平成22年7月20日	評価結果市町受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成22年8月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との交流、また認知症やグループホームという物を理解を頂く為に、毎月便りを発行したり、納涼祭に御参加頂くなど出来るだけ自然に地域に溶け込めるよう努力を行っている。また御家族との信頼関係を築ける様、家族会やお便りにて、日常の様子や変化、また御家族の面会や意見や想いを引き出せる様努めている。
医療連携体制もっており、母体医院による24時間医療サポートも完備している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に基づいて、地域との交流に努め、地域向けのホーム便りを毎月発行し、認知症やグループホームの啓発活動を行い、地域の交番との連携や幼稚園との交流、ボランティアによるピハラの説法、納涼祭(参加者数120名)を行うなど事業所と地域の人々との関わりを積極的に支援されています。毎月の家族向けホーム便りは利用者の日常生活状況や行事参加の様子を写真入りで送付し、納涼祭、クリスマス会、母の日コンサートなどを利用者とほぼ全員の家族の参加で実施されるなど事業所と利用者、家族の交流に努めておられます。母体医院と24時間医療連携体制が取れており、利用者と家族の安心、安全に繋がっています。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は各スタッフよりアンケートを取り内容をまとめた上で決定した。地域・利用者・職員…どの間をとっても支え合えの関係が築ける様、自分たちに出来る事を精一杯行っている。	「ひまわりのように常に利用者と地域に向いて…光輝・愛慕・敬慕の精神で」と理念を全職員で協議して、つくり上げている。地域・利用者・職員で支え合う関係が築けるように理念を共有し、日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会には加入をしており、地域の行事・掃除には参加をしている。また、買い物や散髪・ボランティアや実習なども地域資源を利用・活用し、交流に努めている。	自治会に加入し、毎月、地域便りを50部配布している。地域の行事や掃除に参加し、事業所の納涼祭には地域の人の参加がある。事業所自体が地域の一員であり、日常的に交流をしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ひまわり便りという物を、毎月50部ほど地域に配布をしている。その中で、利用者の生活を伝えている。		
4	(3)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を行う前に外部評価の意義を伝えた上で、全職員にて自己評価をおこなっている。また、前年の評価や改善点についても取り組み方法を全員で検討している。	管理者は外部評価、自己評価の意義を説明し、全職員で自己評価を実施している。評価後は改善点を全員で検討し、改善に取り組んでいる。	
5	(4)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度、自治会長・幼稚園園長・民生委員・地区消防団長・地域包括センター職員・家族等を構成員として、行事や事故、外部評価などの報告を行い、意見交換内容などをサービスに活かしている。	2ヶ月に1回開催し、事故報告やサービスの状況、評価の取り組みなどを報告し、災害対策について話し合い、意見交換を行い、サービスに活かすように取り組んでいる。	
6	(5)	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	家族との関係等で疑問等が生じた場合には、市の方へアドバイスや指示を仰いでいる。	日頃より、市と連絡を取りながら、アドバイスや指示を仰いで協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	いかなる場合でも身体拘束は行わず、スピーチロックにも配慮している。施錠に関しては時間や利用者様の状態に合わせ、開錠出来る様努力している。	毎月のカンファレンスで身体拘束やスピーチロックについて話し合い、拘束のないケアに取り組んでいる。施錠に関しても状況に配慮し、開錠できる様に取り組んでいる。	
8		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時等、利用者の身体に痣・傷等が無いが注意・確認を行っている。また態度等の精神的な変化にも注意を払い、スピーチロックに関しても留意し、職員間で注意出来る様努めている。		
9		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要がある方には既に活用している。		
10		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	内容については十分な説明を行い、理解・納得を得た後の契約を行っている。また、改定については、その都度家族会等にて説明を行い、意見交換の後署名を頂いている。		
11	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に目安箱を設置しており、フロアや玄関には第3者委員、苦情受付機関を表記・掲示している。苦情があれば、カンファレンスや運営者と改善を話し合っている。	玄関に目安箱を設置し、苦情受付担当者を掲示し、処理手続きを周知している。家族会で家族の意見や要望を聞き、検討し、サービスに反映させている。	
12	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや日常勤務内にて職員意見は把握し、その提案等を管理者・主任・運営者が密に連絡をとり、共通理解している。	毎月のカンファレンスや日常の勤務の中で意見や提案を聞き、検討し、反映させている。夜勤の勤務時間帯について職員で検討し、現状のままに決定している。	
13		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者と管理者は密に連絡を取り合い、各職員の現状や希望や条件の把握を行っている。それを勤務体制・給与・賞与にて評価を行い、慰安会等も斡旋している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくを進めている	研修は勤務扱いとし、個々に見合った研修を斡旋している。	段階に応じた外部研修への参加、地域密着型サービス事業者連絡会、宅老グループホーム連絡会の研修に参加している。内部研修の充実を図るために各種マニュアルの作成を検討中である。	各種マニュアルを整備し、内部研修の機会の確保
15		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2つの連絡会に入会しており、研修会・相互訪問に参加している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り、入居前の事前訪問や本人との面識が持てる様努めている。また、家族とも交流を持ち、本人が訴えれない事柄も把握出来る様に努めている。		
17		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时より細やかな情報交換を行い、入居が決定した際には開始までも面識や連絡をとり、不安・疑問・想いを引き出せる様努めている。		
18		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学、入居相談の際に情報交換を行い、現在の本人に合ったサービスや御家族の意向に合ったサービスの案内やアドバイスを行っている。		
19		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者ひとりひとりの残存機能や状況を見極め、本人に可能な家事や生活動作は危険が無い様見守りながら生活をして頂いている。		
20		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各家族の住まいや状況で面会頻度の差はあるものの、家族会や行事の参加はをして頂き、ありのままを見れ、傍ですごせる場を提供している。また毎月の便りなどで本人の状態を報告し意識共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅に思い入れのある方はドライブがてら立ち寄って、御近所さんに挨拶をしたり、近所への買い物やお寺からの説法など、本人が何処で暮らしているか感じられる様支援している。	自宅に出かけて近所の方と話をしたり、近所への買い物、デイサービスの利用等馴染みの関係づくりが継続できるように支援している。	
22		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	押しつけにならない様、利用者同士が助け合えたり、コミュニケーションを図れる様、スタッフが橋渡しを行っている。		
23		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関わりを望まれる場合は出来るだけ断ち切らない様対応させて頂く。また、移転先の施設に面会にも行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない発言や行動にも留意しており、利用者が感じている事や求めているものを、なるべく見逃さずカンファレンスなどでも意見交換や情報伝達などを行っている。困難な場合も事故には注意し、制止をなるべくしない様傍にいる。	日々の生活の中で一人ひとりの思いや意向を聞き取り、日誌に記録し、カンファレンスで意見交換を行い、検討している。困難な場合は家族や関係者で話し合い、本人本位に検討している。	
25		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には本人の暮らし方等を本人・家族・利用サービス担当者より伺い、情報収集を行っており、職員全員で情報の共有に努めている。		
26		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェックを行い、日びの健康状態を知り、その事も含め個々に合わせた過ごし方が出来る様努めている。また申し送りも的確に行い変化把握をしている。有する力は作業等、習慣として継続・向上を促せる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族・医療従事者と情報交換も出来るだけ行い、介護計画を立てている。立てた後、全職員にて確認を行い、その意見も含めた上で作成完了としている。	ユニット毎のカンファレンスや3ヶ月毎に見直しを行い、家族や主治医、看護師、職員で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の変化や気づきなどは記録し、大事な内容は特別な申し送りノートと二重にして職員全員が情報・変化を共有出来る様にしており、そこから必要に応じ、介護計画内容変更につなげている。		
29		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別外出・外出・受診等、状況や要望に合わせて出来るだけ柔軟に応じている。		
30		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員・消防団長には運営推進会議に参加頂いており、警察にも利用者名簿を提出し、事故防止の為に協力を働き掛けている。また、説法のボランティアや地域専門学校の実習も積極的に受け入れている。		
31	(13)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体医院より、月2回の往診、また週1回の看護師勤務にて医療サポートをおこなっている。また必要・希望があれば各専門医に紹介を行っている。	本人や家族の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、母体医院の月2回の訪問診療や週1回看護師の医療サポートを受けている。	
32		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1度の看護師勤務に併せて、ほぼ毎日母体医院看護師にも細かい状況・変化報告を行っておりアドバイスや指示を仰いでいる。		
33		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	職員が頻回なお見舞いに行き、家族との情報交換を行い、病院関係者とも細目に連絡を取り合い利用者が退院や行き先に困らない様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化指針の提示と併せ、看取り介護の内容説明もおこなっている。また、家族会にて看取り介護の説明や意見交換も行っている。	入居契約時に、本人・家族と重度化指針の提示や看取りについて話し合い、事業所で出来ることを説明しながら方針を共有し、医師と共にチームで支援に取り組んでいる。	
35	(15)	事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	全職員、消防が行ってる救急救命訓練に参加しており、定期的に資格更新にも行っている。また必要な方には食事形態を検討したり、フットコールセンサーを設置する等で個々の対応を心掛けている。	全職員は消防署が実施する救急救命訓練を受講し、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。転倒・誤薬はヒヤリはっと報告書に記録し再発防止に取り組んでいる。行方不明の対策として地域の交番と協力体制をとっている。	
36	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練も昼夜それぞれの訓練を行っており、そこからの反省をもとに、改善点を全スタッフで検討し続けている。また運営推進会議でも度々災害対策については提議しており、意見交換やアドバイスを貰っている。	昼夜想定避難訓練を年2回、利用者と共にを行い、実施後は必ず反省会を行い、改善点をスタッフ全員で検討し、避難出来るより良い方法を全職員は身につけている。運営推進会議で災害対策について提案し、意見交換やアドバイスをもらい、12月には地域との協力で実施を計画している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけず、敬意を持ち声掛けを行う様努めている。また、団体生活である事も踏まえた上で、危険が無い事を前提にプライバシーの確保も留意している。	一人ひとりの人格を尊重し、自尊心を傷つけない言葉かけや排泄時や入浴時等プライバシーに配慮して対応をしている。	
38		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人の状態を考慮しながらも、選択するという大切さを職員が念頭に置き、自尊心を傷つけない様、選択出来る場面の提供を心掛けている。		
39		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務内容時間は目安とし、利用者本位を基本に業務に臨んでいる。レクや外出等の場を提供はするも、内容や参加可否等の選択をして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者のADLやその日の体調に合わせ、衣類の選択等を促している。マニキュアも色の選択をして頂いている。地域の美容院から出張カットにも来て頂いており、身だしなみに配慮出来る様にしている。		
41	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苦手な食材や調理法があれば、好みに応じている。また誕生日等にはその利用者の嗜好に応じたり、食事の準備の下処理や利用者が得意な献立を組み込み、率先して家事に加わり食事という物を受ける立場だけではなく、楽しめる様提供している。	三食とも事業所で調理し、誕生日に利用者の希望を聞き献立を決めるなど利用者の好みに合わせてメニューの変更にも対応している。食材の買い物、下ごしらえ、後片付けを利用者と職員で一緒に行い、食事を楽しめるよう支援している。	
42		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂食量は全て把握し、水分が不足がちな利用者には個別で表をつけ、把握に努めている。水分せつつ主トロミ等も使用し適切		
43		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し、必要な方には介助を行っている。また協力機関である歯科より、往診に来て頂く事もある。		
44	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者のADLに応じて対応している。紙パンツを使用しているも、出来るだけ自立を促し、利用者が汚染で不快感を感じない様、トイレ誘導や声掛けを行っている。	日誌に排泄を記録し、一人ひとりのパターンを把握して、声かけや誘導を行い、可能な限りトイレでの排泄ができる様に支援している。	
45		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の方には母体病院に指示を仰ぎ、服薬にてコントロールを行っている。日常的にも水分摂取を促し、ヨーグルト等の排便を促す食物を積極的に献立に取り込んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的には1日置きの入浴としているが、本人の希望や失禁また汚染の有無に応じて臨機応変に対応している。順番も本人の状態を見てタイミングを合わせている。	一日おきの入浴であるが、希望や季節に合わせて対応している。夏場は毎日シャワー浴をしている。利用者のタイミングを見ながら支援している。	
47		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝・気象の時間が余りに遅いまた早い場合には時間をお伝えしているが、基本的には本人の意思に任せている。また前日の睡眠時間や内服薬を考慮しながら入床を促したり夜間の良眠が得れる様、配慮している。		
48		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬ファイルを作成しており、いつでも確認出来る様にしている。また介護計画にも服薬内容について記載し、再確認する様にしている。変化があれば、その都度受診をし処方内容の検討を行っている。		
49	(21)	活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に伺っていた趣味や生活歴を把握し、その場面の提供を行っている。同時に今出来る事を見つけ、活躍の場を増やし自尊心の維持が出来る様配慮している。また個人的に好まれる読み物を購入し、楽しみとして頂いている。	一人ひとりの生活歴を把握し、今までと同じ新聞や雑誌をとり、洗濯物たたみ、調理の下ごしらえ、ごみ袋折などを支援し、ボランティアの説法、母の日コンサートは利用者の楽しみとなっている。	
50	(22)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や天候を考慮し、職員付き添いの下買い物や散歩等屋外に出る機会を作る様に努めている。また誕生日には個別対応で遠出をしたり、御家族の付き添いも頂いている。	日常は買い物や散歩に出かけ、初詣や季節の花(桜・ばら・菖蒲)を見に出かけたり、幼稚園の盆踊りや運動会に出かけている。誕生日には希望にあわせて外食やドライブの支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段、所持金は全て鍵付きの金庫で事務所管理としている。		
52		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いは出して頂いているが、その他のやり取りは無い。電話は深夜または早朝でなければいつでも応じる。		
53	(23)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	雑音を省く為、食事中や作業中はTVを消したり、心地良い音楽を流し混乱等を招かない様配慮している。また掲示は四季折々の物を掲示し、季節感を感じて頂ける様にしている。また天候が良ければ定期的に換気を行い、エアコン・除湿器・加湿器を使用し、湿度・室温にも配慮している。	共用空間は利用者にとって不快な刺激もなく、フローからは外の景色が眺められ、四季の掲示物が掲示されるなど、生活感、季節感を取り入れて、居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
54		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内でも椅子を分散させたり、居室以外でも目の届く範囲での居場所づくりに配慮している。		
55	(24)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には使い慣れた物品の搬入をお願いしている。危険がない限り、生活に必要な物または本人・家族が希望する物。個性が感じられる物を配置している。	入居時に本人や家族と相談して、使い慣れた筆筒、テレビ、冷蔵庫、本人の好みの机等が持ち込まれ、個性を活かしながら、居心地良く過ごせるように支援している。	
56		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活感を残したまま、不必要な物品は配置せず、足元や頭の高さに注意をし、各場所等が把握し易い様案内を掲示したり、環境づくりを行っている。		